

2025年度 第61回
「小島三郎記念文化賞」推薦依頼

拝啓 春暖の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本財団の活動に格別なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本事業は、元国立予防衛生研究所長故小島三郎博士のご遺徳を永く記念すべく、1965年（昭和40年）4月に創設され、その記念事業の一つとして「小島三郎記念文化賞」が設定されております。

本賞は、故小島三郎博士が広く関係をもたれていた病原微生物学、感染症学、公衆衛生学その他これらに関連した領域において学問的に顕著な業績をあげた方に贈呈するものであります。

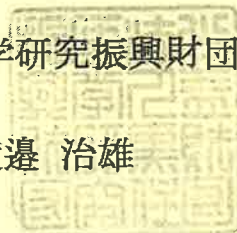
つきましては、貴殿より次頁の審査規定をご参照の上、本賞受賞候補者のご推薦を賜りたくお願い申し上げます。

敬具

2025年3月15日

公益財団法人 黒住医学研究振興財団

代表理事・理事長 渡邊 治雄



※公益財団法人 黒住医学研究振興財団の事務局は

東京都台東区台東4-19-9 山口ビル7

TEL 03-5846-3504 FAX 03-5846-3514

URL <http://www.kmf.or.jp>

E-mail: info@kmf.or.jp

2025年度 第61回
「小島三郎記念文化賞」審査規定

1. 本賞は、「小島三郎記念文化賞」と称する。
2. 本賞は、病原微生物学、感染症学、公衆衛生学その他これらに関連した領域において学問的に顕著な業績で、しかも我が国の文化に貢献したと考えられる、又は今後貢献すると期待される研究成果に対して贈るものである。
3. 審査の対象は、原則として近年の業績であり、かつ、評価の定まったものとする。
4. 本賞受賞候補者の審査は、本財団が委嘱した選考委員がこれを行う。
5. 本賞受賞候補者の推薦は、本財団が関係領域の学識経験者に委嘱するのを原則とする。
6. 本賞の審査は、毎年1回行う。

附則

- (1) 推薦用紙は、本財団ホームページよりダウンロードしてご使用ください。(年度毎に改訂されますのでご注意ください。)
- (2) 推薦用紙とともに、論文別刷などの資料を同封してください。
- (3) 締切りは 2025年5月31日(金) 消印とします。
- (4) 発表は9月末日に本財団ホームページに掲載し、受賞者・推薦者にその旨を通知いたします。なお、贈呈式は10月31日(金)です。
- (5) 送付先

(切り取ってご使用ください)

〒110-8408

東京都台東区台東 4-19-9 山口ビル7

公益財団法人 黒住医学研究振興財団宛

本賞の第24回から第60回までの受賞者は次の方々です。

(第1回からの詳細は財団ホームページを参照願います。)

年 度	氏 名	所 属 機 関
第24回 1988年(昭63)10月	28.山西 弘一 博士	大阪大学微生物病研究所 助教授
第25回 1989年(平元)11月	29.五十嵐 章 博士	長崎大学熱帯医学研究所 教授
第26回 1990年(平2)11月	30.斎藤 和久 博士	国際医学情報センター 理事長
第27回 1991年(平3)11月	31.倉田 毅 博士	国立予防衛生研究所 病理部長
第28回 1992年(平4)11月	32.日野 茂男 博士	鳥取大学医学部ウイルス学 教授
第29回 1993年(平5)11月	33.小澤 敦 博士	東海大学医学部 特任教授
第30回 1994年(平6)11月	34.速水 正憲 博士	京都大学ウイルス研究所 教授
第31回 1995年(平7)11月	35.佐藤 勇治 博士 36.木村三生夫博士	前・国立予防衛生研究所細菌部 室長 東海大学名誉教授
第32回 1996年(平8)11月	37.宮村 達男 博士	国立予防衛生研究所ウイルス第2部長
第33回 1997年(平9)11月	38.相川 正道 博士 39.本田 武司 博士	東海大学総合医学研究所 教授 大阪大学微生物病研究所 教授
第34回 1998年(平10)10月	40.中村 信一 博士	金沢大学医学部医学科(微生物学) 教授
第35回 1999年(平11)10月	41.光山 正雄 博士	京都大学大学院医学研究科 教授
第36回 2000年(平12)10月	42.内山 竹彦 博士	東京女子医科大学微生物学免疫学 教授
第37回 2001年(平13)10月	43.尾身 茂 博士	WHO 西太平洋地域 事務局長
第38回 2002年(平14)10月	44.品川 森一 博士	帯広畜産大学公衆衛生学 教授
第39回 2003年(平15)10月	45.橋爪 壮 博士	(財)日本ポリオ研究所 理事長
第40回 2004年(平16)10月	46.山口 惠三 博士	東邦大学医学部微生物学講座 教授
第41回 2005年(平17)10月	47.渡邊 治雄 博士	国立感染症研究所 副所長
第42回 2006年(平18)10月	48.西山 幸廣 博士	名古屋大学大学院医学系研究科微生物・ 免疫学講座ウイルス学分野 教授
第43回 2007年(平19)10月	49.馬原 文彦 博士	馬原医院 院長
第44回 2008年(平20)10月	50.岡本 宏明 博士	自治医科大学感染・免疫学講座 ウイルス学部門 教授
第45回 2009年(平21)10月	51.伊藤 亮 博士	旭川医科大学医学部寄生虫学講座 教授
第46回 2010年(平22)10月	52.藤田 尚志 博士	京都大学 ウイルス研究所 教授
第47回 2011年(平23)10月	53.吉開 泰信 博士	九州大学生体防御医学研究所 教授
第48回 2012年(平24)10月	54.荒川 宜親 博士	名古屋大学大学院医学系研究科 分子病原細菌学/耐性菌制御学分野 教授

年 度	氏 名 ・ 所 属 機 関 ・ 業 績 題 目
第49回 2013年(平25)10月	55.江崎 孝行 博士 岐阜大学大学院医学系研究科 再生分子統御学講座 病原体制御学分野 教授 (業績の題目) 病原細菌の分類手法の開発とそれを利用した微生物の社会基盤の確立
第50回 2014年(平26)10月	56.中谷比呂樹 博士 世界保健機関(WHO)本部 事務局長補 医学博士 (業績の題目) 不健康と貧困の悪循環を断つための地球規模での公衆衛生学的アプローチ
第51回 2015年(平27)10月	57.瀬谷 司 博士 北海道大学大学院医学研究科免疫学分野 教授 (業績の題目) 自然免疫の自己・非自己識別機構に関する研究
第52回 2016年(平28)10月	58.山崎 晶 博士 九州大学生体防御医学研究所感染ネットワーク研究センター免疫制御学分野 教授 (業績の題目) 結核菌受容体群の発見と宿主免疫賦活化機構の解明
第53回 2017年(平29)10月	59.森 康子 博士 神戸大学大学院医学研究科附属感染症センター臨床ウイルス学分野 教授 (業績の題目) ヒトヘルペスウイルス 6B 受容体の発見とウイルス侵入機構の解明
第54回 2018年(平30)10月	60.川口 寧 博士 東京大学医科学研究所 ウイルス病態制御分野 副所長 / 教授 (業績の題目) 単純ヘルペスウイルスの増殖・病態発現機構の解明
第55回 2019年(令1)10月	61.竹田 誠 博士 国立感染症研究所ウイルス第三部 部長 (業績の題目) 急性呼吸器感染症ウイルスの病原性発現ならびに制御に関する研究
第56回 2020年(令2)10月	該当者なし
第57回 2021年(令3)10月	62. 松岡 雅雄 博士 熊本大学大学院生命科学研究部 血液・膠原病・感染症内科学講座 教授 (業績の題目) ヒト T 細胞白血病ウイルス 1 型の病原性発現機構の解明
第58回 2022年(令4)10月	63. 山本 雅裕 博士 大阪大学微生物病研究所 感染機構研究部門 教授 (業績の題目) 病原性寄生虫と宿主免疫系の相互作用の解明
第59回 2023年(令5)10月	64. 佐藤 佳 博士 東京大学医科学研究所 感染・免疫部門 システムウイルス学分野 教授 (業績の題目) 新型コロナウイルス変異株の特性の解明
第60回 2024年(令6)10月	65. 原 英樹 博士 旭川医科大学 医学部感染症学講座 微生物学分野 教授 (業績の題目) 自然炎症を介した病原細菌感染症の重症化の解明

所属機関長各位

2025年度 研究助成のご案内について

拝啓 時下ますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。

平素は、本財団の活動に格別なるご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、ご承知の如く本財団は、研究助成事業と顕彰事業を2本の柱とする事業を展開しております。

このたび2025年度の研究助成事業として「臨床検査、衛生検査及びこれらに係る基礎医学に関する調査並びに研究」の領域でより優れた学術研究・業績テーマに対して研究助成を行います。また、2022年度より本財団創立30周年を記念いたしまして、期限付ではありますが、新たな対象領域として「感染危機管理」を設けております。

早速ながら、本年度の研究助成金申請書を作成しましたので、お届けいたします。ご多忙中のところ、恐縮ではございますが貴機関の関係者にご伝達の上、2025年5月31日土曜日(当日消印)までに、申請者ご自身から本財団宛に申請くださいますようお願いの程、ご案内かたがたお願い申し上げます。

敬具

2025年3月15日

公益財団法人 黒住医学研究振興財団

代表理事・理事長 渡邊 治雄



※公益財団法人 黒住医学研究振興財団の事務局は
東京都台東区台東4-19-9 山口ビル7
TEL 03-5846-3504 FAX 03-5846-3514
URL <http://www.kmf.or.jp> E-mail: info@kmf.or.jp

公益財団法人 黒住医学研究振興財団
2025年度 第33回 研究助成金募集要項

1. 研究助成事業の対象

研究助成は、臨床検査、衛生検査及びこれらに係る基礎医学に関する調査並びに研究で、より優れた学術研究・業績を研究助成事業の対象とし、若手の育成（原則として50歳以下）を主眼としています（詳細については本財団ホームページ「よくあるご質問」をご参照ください。）。

2. 応募資格

医学関連の大学及びその他の教育機関、研究所並びに医療機関等において、本研究助成事業の対象領域において調査、研究に積極的に取り組もうとする個人とします。

ただし、大学教授及び国公立私立研究機関の部長並びにこれらに準ずる職位の方は除きます。

3. 対象領域

- | | | |
|---------|-------------|--------------------|
| ① 臨床化学 | ② 分子生物学（医学） | ③ 臨床微生物学 |
| ④ 臨床免疫学 | ⑤ 検査血液学 | ⑥ 人体病理学 |
| ⑦ 疫学 注1 | ⑧ 一般・生理学 | ⑨ <u>感染危機管理</u> 注2 |

の9つの領域とします。

注1：臨床検査・衛生検査についての集団(mass)を対象に扱う研究

注2：次なるパンデミック対応、バイオリスク管理、施設内感染防止、感染制御、
マシギザリング対策等

4. 募集期間

2025年3月15日（土）から2025年5月31日（土）までとします。

なお、郵送の場合は当日の消印まで有効です。

5. 研究助成件数及び研究助成額

研究助成額は、対象領域①～⑧は1件100万円を限度とし、助成件数は15件以上とします。

また、対象領域⑨は1件150万円を限度とし、助成件数は2件ないし3件とします。

6. 応募方法

所定の申請書に記入し、本財団 研究助成金選考委員会 宛に送付してください。

なお、提出部数は「原本と複写2部」の合計3部を送付してください。

☆申請書は必ず公益財団法人黒住医学研究振興財団のホームページからファイルをダウンロードしてご使用ください（年度毎に改訂されますのでご注意ください。）。

URL <http://www.kmf.or.jp/>

7. 審査方法及び通知

本財団の委嘱する審査委員が9つの対象領域ごとに審査したあと、選考委員会で選考審査を行い、理事会で研究助成の対象を決定します。その結果は、9月末日に本財団ホームページに掲載し、受贈者にその旨を通知いたします。

8. 研究助成金の贈呈

2025年10月31日(金)の小島三郎記念文化賞贈呈式にあわせて、研究助成金を贈呈する予定です。

9. 受贈者の研究助成金受領後の義務

以下の事項を研究助成金受領後(贈呈式後)、1年以内に本財団事務局へ提出していただきます。

- ① 研究期間は、原則として研究助成金受領後1年間とし、その研究結果について本財団指定様式にて2,000字以内で報告書を作成すること。1年間で終了しない場合は、中間報告として研究・会計報告書を作成すること。

(報告書は年報・本財団ホームページ・研究業績集に掲載させていただきます。)

- ② 会計報告については本財団指定様式にて作成すること。

なお、受贈者が研究結果を発表する口頭発表論文発表等には本財団の研究助成を受けた旨の附記(英字表記の場合は、「KUROZUMI MEDICAL FOUNDATION」)を必ずしてください。

※「研究報告書」の本財団事務局への提出が確認できない場合には、当該研究課題について贈呈した研究助成金の贈呈決定を取り消し、受領した助成金の返還を求めるとともに、所属する研究機関の名称等の情報を公表する場合があります。

10. 申請書類の提出先

〒110-8408

東京都台東区台東4-19-9 山口ビル7

公益財団法人 黒住医学研究振興財団 研究助成金選考委員会 宛

(問い合わせ先)

公益財団法人 黒住医学研究振興財団 事務局

TEL 03-5846-3504

FAX 03-5846-3514

E-mail info@kmf.or.jp

附記

- 所属機関長は、大学長、研究所長、病院長及びそれに相当する職域の長であることが必要となります。
- 応募の書類は、一切返却いたしません。
- 贈呈される助成金には、大学等の間接経費(事務処理経費)は含みません。

第 32 回研究助成金贈呈者の研究課題一覧 (2024 年度) 参考

氏 名	所 属	研 究 課 題	選考対象
いしくろ あきよ 石黒 旭代	山口大学大学院医学系研究科 臨床検査・腫瘍学講座 助教	早期ステージ肝細胞癌診断のための糖化フェリチンを用いた新規測定方法の開発	臨床 化学
いのうえ ゆうすけ 井上 雄介	徳島大学病院 医療技術部 臨床検査技術部門 主任臨床検査技師	多発性骨髄腫に対する抗 CD38 抗体医薬使用時の CD38 検出におけるフローサイトメトリー検査の最適化	臨床 免疫学
おかの たかいち 岡野 隆一	神戸大学医学研究科 未来医学講座 バイオリソース・ヘルスケア 統合解析科学分野 特命講師 医学博士	アクアフォトミクスによる強皮症患者における皮膚硬化の新たな検査法の確立	一般・ 生理学
おぎ みき 荻 美貴	兵庫県立健康科学研究所 感染症部 主任研究員 医学博士	兵庫県内で重症例から検出されることのあるコクサッキーウイルス A2, A4, A6 の分子疫学解析とそれらの間での組み換えに関する研究	疫学
かさねら ひでのり 笠原 秀範	大阪国際がんセンター 血液内科 特別研究員 医学博士	新規分子 MS4A3 の急性骨髄性白血病における意義の検討と診断・治療へ応用	検査 血液学
きたがわ ひろき 北川 浩樹	広島大学病院 感染症科 助教 医学博士	末梢血検体を用いたマルチプレックス・デジタルPCRによる菌血症の迅速診断法開発	臨床微 生物学
くろぎ しゅうたく 黒木 秀作	大分大学医学部 分子病理学講座 医学博士	膵癌の治療抵抗性関連分子 ANXA8 を標的とした新規治療法のためのコンパニオン診断検査法の開発	臨床 化学
さかもと ゆうま 坂本 祐真	川崎医科大学医学部 免疫学 助教 医学博士	体細胞モザイクが惹起する重症自己炎症性疾患「VEXAS 症候群」の高感度変異解析法の確立	分子 生物学
すずき えま 鈴木 瑛真	札幌医科大学医学部 感染制御・臨床検査医学講座 臨床検査技師	LC-MS/MS を用いた血中遊離テストステロンの測定法の開発	臨床 化学
たなか みお 田中 美緒	宮崎大学医学部 感染症学講座寄生虫学分野 助教 医学博士	北海道における肺吸中感染実態解明に向けた包括的調査	疫学
にしこおりあさみ 錦織亜沙美	岡山大学学術研究院保健学域 検査技術 科学分野 分子血液病理学 助教 保健学博士	IL-6 タンパク発現解析による特発性多中心性キャッスルマン病 (iMCD) の治療予測指標の確立	人体 病理
はら のぶいらいち 波多野裕一郎	大阪医科薬科大学 病理学教室 講師 医学博士	多重免疫組織化学を用いたミスマッチ修復タンパク発現状態の一切片解析法の確立	人体 病理学
ひがしもと ゆうき 東本 祐紀	藤田医科大学 医療科学部 感染制御学分野 講師 医学博士	COVID-19 パンデミックによる小児ウイルス感染症感受性試者の増加は本当か？	疫学
ふくおか こうへい 福岡 講平	埼玉県立小児医療センター 血液腫瘍科 医長	小児脳腫瘍における骨髄 ctDNA メチル化解析による低侵襲分子診断法の開発	分子 生物学
ふじもと たかひろ 藤本 崇宏	京都府立医科大学大学院医学研究科 分子病態病理学 講師 医学博士	自己免疫性脳炎・脳症の診断材料の開発	臨床 免疫学
ふなしよみこ 船島由美子	国際医療福祉大学 福岡保健医療学部医学検査学科 講師 臨床検査学博士	フリーエ変換赤外分光法を原理とする IR バイオタイパーでの <i>Salmonella</i> 属菌 O 抗原型別モデルの性能検証	臨床微 生物学
いまむら たけあき 今村 剛朗	東北大学大学院医学系研究科 微生物学分野 助教 医学博士	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) における積極的疫学調査の有効性に関する後向き観察研究	感染危 機管理
サトウ 恵	新潟大学大学院保健科学研究科 准教授 熱帯医学博士	「マダニ病原体マルチプレックス・網羅的検出系」と「マダニとマダニ媒介性感染症拡散数理モデル」の開発	感染危 機管理
やまもと まさき 山本 正樹	京都大学医学部附属病院 検査部 講師 医学博士	感染症流行予測調査を推進するためのマルチプレックス抗体検査系の構築	感染危 機管理

総申請者数

183 名

研究助成金総額 1,820 万円(19名)